令和８年度

松江歴史館運営協議会

会議資料

●令和７年度の事業実績について
・入館者数・観覧者数……１～２
・展示・企画……３～５
・資料取得・調査研究・教育普及・広報等……６～７
・広報・誘客・施設管理……８～１１

●令和８年度の運営状況について……１２～１７

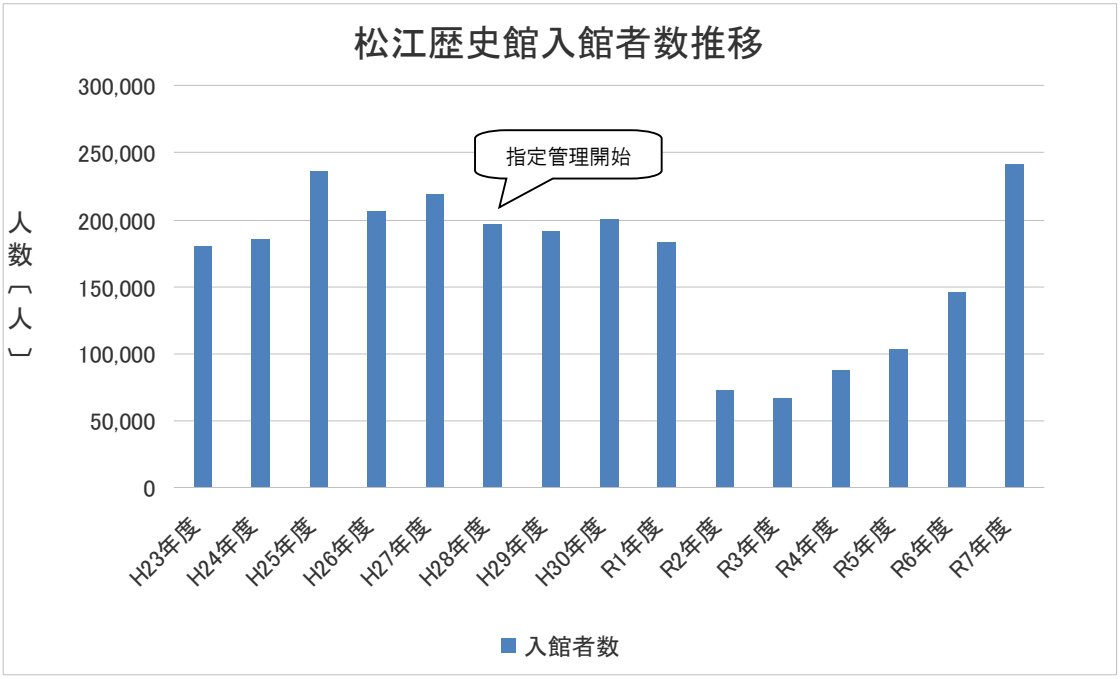
●令和９年度運営方針・事業計画（案）について……１８～２０

●松江歴史館運営協議会委員名簿……２１

●松江歴史館運営協議会に関する法律・例規条文（抜粋）……２２

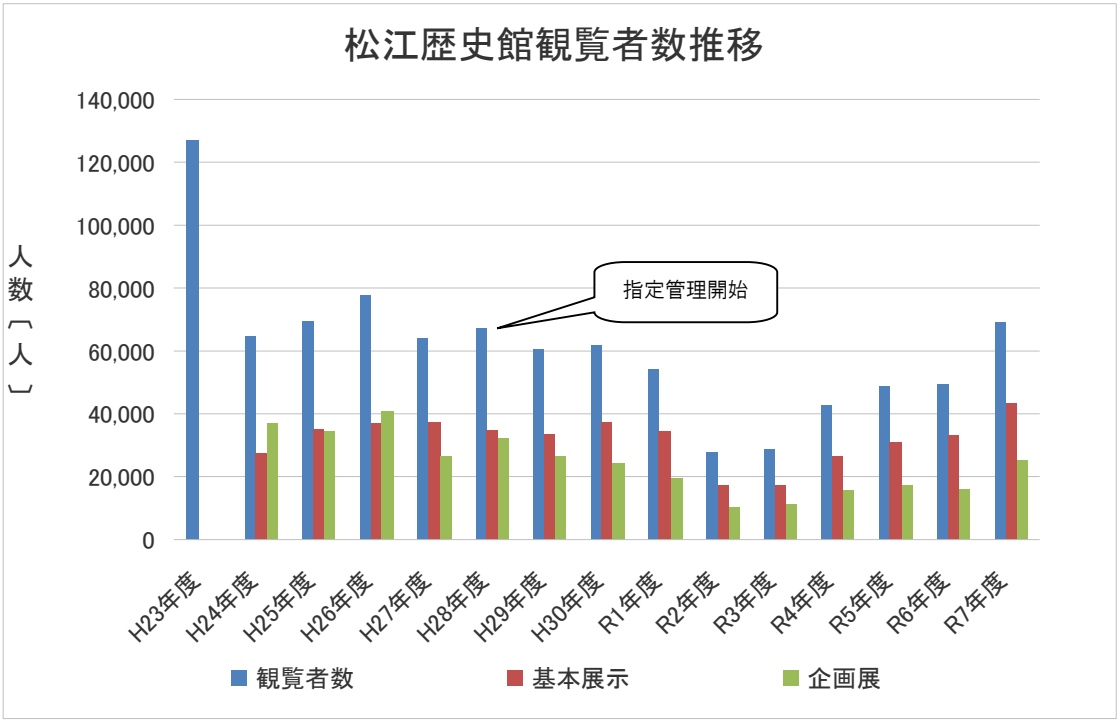
松江歴史館

令和７年度の事業実績（入館者数・観覧者数）



入館者数　241,542 人（前年：145,149 人、前年比 166.4%）

※敷地内に入った人数



観覧者数　69,132 人（前年：49,449 人、前年比 139.8%）　【目標値：54,000 人】

※基本・企画展示の観覧者数

【入館者数、観覧者数の評価】

→入館者数の前年比 166.4%に対し、観覧者数は前年比 139.8%であった。

→入館者数は 5 月を除いて、観覧者数は 4 月・5 月を除いて、令和 6 年度と比べて増加した。特に 11 月からの増加率が高く、12 月は前年度比の 3 倍となった。令和 7 年度は国宝松江城天守 10 周年に伴うイベントや松江を舞台にした連続テレビ小説「ばけばけ」が放映されたことに伴い、観光客が増加したことが起因と考えられる。当館でも関連した企画展を開催し、「慶長の城―松江城築城とその時代―」は 6,682 人、「連続テレビ小説『ばけばけ』の世界と小泉セツと八雲の時代」は 11,850 人と多くの観覧があった。

→令和 7 年度の松江城と松江歴史館との 2 館共通券利用者は 11,909 人で、令和 6 年度と比べ約 2 倍に増加した。松江城に関連した企画展やミニ展示を当館で行ったこと、これまで紙で販売されていた松江城・小泉八雲記念館・武家屋敷の 3 館共通券を電子チケットのみに切り替えられたため、紙の共通券を求める方が 2 館共通券に集中したことが起因と考えられる。一方で、松江城登閣者 441,244 人に対し、2 館共通券の購入率は約 2.7%であり、松江城との連携を高め、城と当館の両方を見てもらえるような取組みが必要である。

松江歴史館

令和７年度事業実績（展示・企画）

（１）企画展・特別展　※企画展示室での展覧会

企画展名	会期	内容	観覧者数(人)
【企画展】 松江の名工・小林如泥－その技、神の如し－	R7.4.25～ 6.15 (46日間)	小林如泥の作品と如泥に影響を受けた人々の作品を紹介し、松江が誇る木工文化のすばらしさを改めて認識する機会とした。	3,216人 (約69人/日)
【館蔵品展】 長崎家の籐細工－松江でつづく丁寧な仕事－	R7.7.18～ 9.15 (53日間)	初代長崎仲蔵から現在に活躍する長崎誠氏とその技術を受け継ぐ方々の作品を展示し、江戸時代から松江で作られ続けてきた籐細工の一端を紹介した。	3,823人 (約72人/日)
【特別展】 慶長の城－松江城築城とその時代	R7.10.10～ 12.7 (51日間)	松江城天守の国宝指定10周年を記念し、松江城研究の成果に基づき、周辺地域の城と比較しながら、「慶長の城」松江城の姿を紹介した。	6,682人 (約131人/日)
【企画展】 連続テレビ小説「ばけばけ」の世界と小泉セツと八雲の時代	R7.12.26～ 3.29 (78日間)	松江を舞台とした連続テレビ小説「ばけばけ」と連動し、ドラマの主役のモデルとなった小泉セツと夫の八雲が生きた明治時代の松江を紹介した。	11,850人 (約152人/日)



松江の名工・小林如泥



長崎家の籐細工



慶長の城



連続テレビ小説「ばけばけ」の世界と小泉セツと八雲の時代

【企画展・特別展のトピック】

・<u>企画展「松江の名工・小林如泥－その技、神の如し－」</u>

→記念講演会「不昧と如泥―不昧の遺した技と美―」（講師：出雲文化伝承館 館長　藤原隆氏）を開催した。（参加者　58 人）

→本市文化財課主催の「松江市歴史のまち歩き『松江の名工・小林如泥の痕跡をたどる』」に

おいて、白潟公民館館長　松本道博氏とともに展示担当学芸員がガイドを担当した。(応募者 74 人　参加者（定員）20 人)

→ギャラリートーク（学芸員による展示解説）を実施した。(計 4 回　参加者 137 人)

→ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を活用し、日本語で展示解説を実施した。

→「国立文化財機構所蔵品貸与促進事業」を活用し、小林如泥の代表作品「袖障子」「茶箱」を東京国立博物館から借用した。また助成を受け、山陰中央新報の広告欄に掲載した。

・館蔵品展「長崎家の籐細工－松江でつづく丁寧な仕事－」

→松江藩籐細工六代　長崎誠氏、同八代川口淳平氏による記念対談を開催した。(参加者 68 人)

→関連イベントとして「籐細工でコースターor 籠作り」を開催した。(参加者 15 人)

→ギャラリートーク（学芸員による展示解説）を実施した。(計 4 回　参加者 96 人)

→外国人観覧者に対応するため、パネルに英語を併記した。

・特別展「慶長の城－松江城築城とその時代－」

→記念講演会「松江城と駿府城の慶長期石垣―石垣から見た堀尾氏と公儀普請―」(講師：織豊期城郭研究会　松井一明氏）を開催した。(参加者 56 人)

→歴史館職員が、小学生を含む子どもとその家族を対象として、松江城を案内する見学ツアー「家族でお城歩き」を開催した。(計 2 回　17 組参加者 58 人)

→ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を活用し、日英の 2 か国語で展示解説を行うとともに、日英韓中仏の 5 か国語で展示図録にも掲載した。

→「令和 7 年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業（文化庁補助事業)」の助成を受けて事業を実施した。東京大学史料編纂所や彦根城博物館、大阪城天守閣等からゆかりの資料を借用し展示を行った。

→展示にあわせ、玄関ホールで松江で暮らす国際交流員が写真で松江城や町の魅力を伝える写真展や、路上詩人こーた氏の御城印展を実施した。

→展示期間中、毎日先着 30 名に祈祷札ステッカーを配布した。また、松江歴史館、松江ホーランエンヤ伝承館、興雲閣、ぶらっと松江観光案内所、武家屋敷を巡ると松江城天守の絵が完成する重ね捺しスタンプラリーを行い、5,000 人の参加があった。

→水燈路にあわせ、10 月 11 日にナイトミュージアムを行った。展示室を無料開放し、1,366 人の観覧があった。

・企画展「連続テレビ小説「ばけばけ」の世界と小泉セツと八雲の時代」

→トークショー「小泉セツ、松野トキに、ばける」(ゲスト：連続テレビ小説「ばけばけ」脚本家　ふじきみつ彦氏、連続テレビ小説「ばけばけ」制作統括　橋爪國臣氏）を開催した。(参加者 190 人)

→記念講演会「松江の風俗考証を担当して」(講師：松江歴史館名誉館長　藤岡大拙氏）を開催した。(参加者 55 人)

→展示にあわせ、玄関ホールで出雲言葉の指導をした松島彩氏が描いたドラマ撮影現場の風景画の展示や、八雲が避暑地として愛した焼津の町と逗留先の家主山口乙吉等を紹介した写真展、現代の写真家古川誠氏が八雲の関係地を撮影した写真展を行った。

→展示期間中、八雲とセツのゆかりの地（カラコロ工房、県立美術館、武家屋敷、松江歴史館）を巡るスタンプラリーを実施し、全て巡った方に怪談付箋をプレゼントした。(達成者 800 人)

→江戸時代の長屋を舞台にしたお化け屋敷を行った。（参加者 772 人）
→地元観光業者と連携し、八雲とセツが語り合った怪談の世界を追体験するミステリーツアーを行った。（参加者 15 人）

（２）スポット展示・ミニ展示（展示室などの一角を利用した館蔵品中心の小展示）

・スポット展示（基本展示室内の展示コーナーの一角で展示）：計６回

→「豊穣の湖－宍道湖の漁撈用具－」　４月１日～5 月 25 日
「松江藩の御用窯・布志名焼 永原窯」　5 月 27 日～7 月 27 日
「終戦 80 年記念－出征する若者へ－」　7 月 29 日～9 月 28 日
「昭和時代の八雲塗－華やかな装飾－」　9 月 30 日～11 月 30 日
「若槻禮次郎のサインと印章」　12 月 2 日～2 月 1 日
「松江藩家老・乙部家の所蔵品」　2 月 3 日～3 月 29 日

・ミニ展示（企画展示室前のホールで展示）（無料）：計６回

→「不昧の美意識を伝える名工たち」　４月１日～5 月 25 日
「松江城天守保存のあゆみ－調査して磨く－」　5 月 27 日～7 月 27 日
「松江城天守保存のあゆみ－修理して伝える－」　7 月 29 日～9 月 28 日
「松江ゆかりの画家・草光信成が旅した北海道」　9 月 30 日～11 月 30 日
「小泉セツの面影」　12 月 2 日～2 月 1 日
「桃の節句のお人形－お雛様と天神様－」　2 月 3 日～3 月 29 日

（３）その他

・「公開承認施設」としての取り組み

※公開承認の要件
5 年間に重要文化財の公開を適切に 3 回以上行った実績があること。

→国宝・重要文化財の展示実績（令和 7 年度）

特別展「慶長の城」

指定の別	国宝又は重要文化財の名称及び員数		種別	展示期間
国宝	中務大輔家久公卿上京日記（島津家文書）	一巻	古文書	令和7年10月10日～11月16日
国宝	酒井忠世外2名連署状（島津家文書）	一巻	古文書	令和7年10月28日～12月7日
重要文化財	徳川秀忠判物	一通	古文書	令和7年11月11日～12月7日
重要文化財	井伊家伝書（写）	一冊	古文書	令和7年10月10日～11月９日
重要文化財	旧記雑録　後編　八巻（薩藩旧記雑録）	一冊	古文書	令和7年11月18日～12月7日
重要文化財	旧記雑録　後編　七一巻（薩藩旧記雑録）	一冊	古文書	令和7年10月10日～10月26日

松江歴史館

令和７年度事業実績（資料取得・調査研究・教育普及・広報等）

（１）資料の取得

・寄贈・・・計９件

1	松江城修築記念タバコ、伝統ホーランエンヤ記念入場券、松江市交通局創業 50 周年記念乗車券	16 点
2	旅行の栞	1 点
3	松江市商業新地図	1 点
4	池尻家文書	4 点
5	海軍飛行予科練習生の制服	1 点
6	修業・卒業証書、写真	17 点
7	絵画作品（浅井柳塘、狩野勝川院雅信、河野天鱗、朝日千助（恒重））	6 点
8	太田家文書	一式
9	小島仙之助作鮫鰊茶器、勝軍木庵作木地蒔絵棗ほか	18 点

・寄託（新規）・・・計２件

（２）調査・研究

・『松江歴史館研究紀要　第 14 号』の刊行　→論考 3 件を掲載。

	タイトル	寄稿者
1	『消暑漫筆』にみる松江藩士松原基の思想と起筆背景	宇野　鈴音
2	香西頼山『七種宝納記』に関する写本の整理	宇野　鈴音
3	松江における明治二十四年「第一回新古美術品展覧会」（二）―〈研究編〉ハーンの展覧会評と宝物取調局「参考品」―	村角　紀子

（３）教育・普及

・名誉館長講座

→藤岡名誉館長による中世の出雲の歴史についての講座。（月 1 回 4 月～3 月、定員 60 名）

・松江おもしろ談義－歴史をたずねる・美術にしたしむ－

→学芸員による松江の歴史や美術に関する講座。（月 1 回 参加者合計人）　237 人

4 月 20 日（日）　「島根半島沿岸の漁撈用具に見る地域の暮ら史」　20 人
6 月 15 日（日）　「松江の名工・小林如泥の技とゆかりの地について」 46 人
8 月 17 日（日）　「茶色い戦争ありました－軍事郵便と鹿島の戦争－」 29 人
10 月 5 日（日）　「ふたつの善光寺－松江と長野」 33 人
12 月 21 日（日）　「困窮する明治時代の松江藩士たち」　60 人
2 月 15 日（日）　「松江の士族三浦家の台所事情」　49 人

・松江城授業プロジェクト「松江城及び松江歴史館見学」（松江市教育委員会主催）（10 年目）
→学芸員等が市立小学 6 年生等に対して松江城と松江歴史館等を案内。（全 32 校 1,721 人）

・松江歴史館を訪れた市内小学 6 年生への無料観覧パスポートの進呈
→学習意欲のある児童を支援するため、自主的に松江歴史館を訪れた市内小学 6 年生に、松江歴史館及び松江ホーランエンヤ伝承館の年間無料観覧パスポートを進呈。
（進呈者数 31 人）

・「めざせ！お城マスター！～もっと知りたい松江のお城と城下町～」の実施
→松江市内の歴史に興味がある小学 5・6 年生（保護者含む）を対象に、松江城や城下町の歴史や、文化財を保存し活かす博物館の役割について説明や案内をした。（参加者 24 人）
A コース「武将の装い～鎧・兜の巻～」（参加者 2 人）
B コース「松江城のお宝と対面！～松江歴史館の裏側拝見～」（参加者 11 人）
C コース「難攻不落、松江城の秘密～攻防の仕組みを探る～」（参加者 8 人）
D コース「松江城下をブラあるき！～江戸時代にタイムスリップできる歩き方～」
（参加者 3 人）

（4）広報
・松江歴史館ニューズレター「MATSUREKI」の刊行
→9 号（秋号）、10 号（冬号）の刊行
発行部数各：8,000 部
配布先：松江市内観光施設、松江市内小中学校、市内公民館、図書館、博物館等

松江歴史館

令和７年度事業実績（広報・誘客・施設管理）

（１） 広報・誘客

様々な誘客イベントを開催し誘客に努めた。松江城天守国宝指定 10 周年や朝ドラ「ばけばけ」の放送と企画展開催にあわせ、小泉八雲とセツや怪談をテーマとした関連イベントを複数開催し、集客増および松江観光の盛り上がりの醸成に貢献した。

SNS なども週１回以上更新し、松江歴史館に興味を持ってもらえる様な記事を投稿した。また県外などで開催された観光情報説明会への参加や、旅行会社への営業(約 100 件)も積極的に行った。

開催日	件名	人数	概要
毎週水曜 ※5/7,7/30,12/31 除く	水曜こども寄席	620 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
4 月 13 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	145 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
4 月 20 日(日)	特別茶席「きはる庵」	6 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
4 月 20 日(日)	こども寄席	5 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
4 月 27 日(日)	こども寄席	15 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
5 月 3 日(土) ～5 月 5 日(月)	弓打ち射的・手裏剣的当て	423 人	弓で大将を倒したり、手裏剣を的に当てたら景品を進呈。各 1 回 100 円
5 月 3 日(土)	火縄銃の演武と居合切り	340 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
5 月 4 日(日)	ＧＷ子ども寄席	70 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語。入場無料、出入り自由
5 月 5 日(月)	松江真舞会　石見神楽上演	288 人	松江市の石見神楽団体「松江真舞会」による上演。鑑賞無料。
6 月 15 日(日)	特別茶席「きはる庵」	23 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
6 月 28 日（土） ～6 月 29 日（日）	展示観覧者に「松江城天守祈祷札ステッカー」をプレゼント	665 人	展示観覧者に「松江城天守祈祷札ステッカー」をプレゼント
6 月 28 日（土） ～6 月 29 日（日）	特別版お城 EXPO in松江 ブース出展		松江城・歴史館共通券と御城印の販売、館の PR
7 月 19 日（土）	こども寄席	10 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
7 月 20 日（日）	【松江城天守国宝 10 周年記念】松江歴史館こども寄席	105 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる松江城に関する話や小泉八雲の怪談話、出雲弁での落語。入場無料
7 月 20 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	357 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
7 月 26 日（土）	お城マスターA コース「武将の装い～鎧・兜の巻～」	１組２人	市内小学 5，6 年生対象のフィールドワーク。定員５組、参加無料

開催日	件名	人数	概要
7 月 27 日(日)	特別茶席「きはる庵」	10 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
7 月 27 日 (日)	籐細工でコースターor 籠作り	15 人	籐細工でコースターまたは籠を作る。参加費 1,200 円、定員 15 人
8 月 2 日 (土)	お城マスターB コース「松江城のお宝と対面！～松江歴史館の裏側拝見～」	6 組 11 人	市内小学 5，6 年生対象のフィールドワーク。定員５組、参加無料
8 月 7 日 (木)	こども寄席	13 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
8 月 10 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	雨天中止	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
8 月 15 日 (金)	こども寄席	20 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
9 月 12 日 (金)	こども寄席	7 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
9 月 14 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	333 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
9 月 27 日 (土)	お城マスターC コース「難攻不落、松江城の秘密～攻防の仕組みを探る～」	5 組 8 人	市内小学 5，6 年生対象のフィールドワーク。定員５組、参加無料
10 月 4 日 (土)	お城マスターD コース「松江城下をブラあるき！～江戸時代にタイムスリップできる歩き方～」	2 組 3 人	市内小学 5，6 年生対象のフィールドワーク。定員５組、参加無料
10 月 10 日(金) ～12 月 7 日(日)	祈祷札ステッカープレゼント	1530 人	特別展を観覧の方、各日先着 30 人に松江城天守祈祷札のステッカーをプレゼント
10 月 10 日(金) ～12 月 7 日(日)	松江城重ねおしスタンプラリー	約 5700 枚	5 つのスタンプを重ねて押すことで、カラフルな松江城の絵柄が出来上がる。松江歴史館、松江ホーランエンヤ伝承館、興雲閣、ぶらっと、武家屋敷に設置
10 月 12 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	383 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
11 月 3 日(月)	松江歴史館こども寄席ー秋の陣ー	60 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる松江城に関する話や小泉八雲の怪談話、出雲弁での落語。入場無料
11 月 9 日(日)	家族でお城歩き―松江城入門―	9 組 29 人	小学生を含む子どもとその家族がガイドの案内を聞きながら城歩きをする。参加無料、定員 10 組
11 月 16 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	242 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
11 月 16 日(日)	特別茶席「きはる庵」	4 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
11 月 22 日(土) ～12 月 7 日(日)	路上詩人こーた 御城印展		路上詩人こーた氏が手掛けた各地の御城印を展示
11 月 23 日 (日)	篆刻教室	11 人	島根篆刻会の指導で人前などの文字を石に彫ったオリジナルの印を作成する。500 円、定員各 10 人
11 月 29 日(土)	家族でお城歩き―松江城入門―	9 組 30 人	小学生を含む子どもとその家族がガイドの案内を聞きながら城歩きをする。参加無料、定員 10 組

開催日	件名	人数	概要
12 月 6 日(土)	まこもを使ったしめ縄づくり	8 人	正月かざりのしめ縄を、真菰を使って作る。2,000 円、定員 10 人
12 月 10 日(水) ～12 月 21 日(日)	森下美津子焼き絵展「小泉八雲と、松江と...」		焼き絵（ウッドバーニング）で描いた小泉八雲と家族の絵などの作品展
1 月 2 日(金)	書き初め	48 人	″学校の宿題や新年の抱負など自由に書き初めしてもらう。開眼師範による指導もあり。 参加無料、定員 1 回（30 分）5 人×10 回″
1 月 2 日(金)	松江城鉄炮隊初撃ち	120 人	松江城鉄炮隊による新年初の火縄銃の鉄砲演武
1 月 3 日(土)	ビニール凧づくり	12 人	凧をビニールとストローで簡単に作る。1 枚 100 円
1 月 17 日(土)	小泉八雲と怪談　闇夜のミステリーツアー	18 人	八雲の怪談の世界を五感で感じ、謎解きに挑戦。夜の展示観覧もあり。参加費 4,000 円
1 月 18 日(日)	特別茶席「きはる庵」	18 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
2 月 1 日(日)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」プレ開催	57 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。※プレ開催のため無料
2 月 8 日 (日)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	9 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
2 月 21 日(土) ～2 月 23 日(月)	へるんアートパーク	153 人	地元アーティストが描いた小泉八雲がテーマの人間すごろくや妖怪ぬりえなど
2 月 28 日(土)	花もちづくり	6 組 19 人	松江に伝わる桃の節句のお菓子・花もちを親子で作る。定員親子 6 組、1 組 1,000 円
2 月 28 日 (土)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	24 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
3 月 1 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	238 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
3 月 1 日 (日)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	27 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
3 月 8 日 (日)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	22 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
3 月 15 日(日)	特別茶席「きはる庵」	18 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験していただく。一席 1,500 円
3 月 20 日(金) ～3 月 22 日(日)	″開館 15 周年記念・企画展関連イベント お化け屋敷「怪談長屋」″	190 組 513 人	小泉八雲の怪談をテーマにしたお化け屋敷。小学生以上一人 300 円
3 月 20 日(金) ～3 月 22 日(日)	開館 15 周年記念イベント		展示室無料開放(22 日)やしじみ汁配布(21, 22 日)、飲食物販売など盛りだくさんのイベント
3 月 20 日(金)	開館 15 周年記念イベント 松江歴史館こども寄席ー春の陣ー	100 人	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる松江城に関する話や小泉八雲の怪談話、出雲弁での落語。入場無料
3 月 21 日 (土)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	42 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
3 月 22 日 (日)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	47 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円
3 月 28 日(土) ～3 月 29 日(日)	″開館 15 周年記念・企画展関連イベント お化け屋敷「怪談長屋」″	135 組 342 人	小泉八雲の怪談をテーマにしたお化け屋敷。小学生以上一人 300 円

・<u>松江城天守 VR 体験の実施【継続】</u>

松江城天守へ登閣が困難な方等への登閣疑似体験の提供や VR のエンターテイメント性を活

かした天守の魅力発信のため、令和 4 年度から実施しており、223 人の参加があった。

（2）維持管理業務

・<u>設備等管理</u>

保守点検業者と密に連携し対応した。夜間などに異常がみられた際も速やかに対応した。修繕が必要な際は松江市に報告し、協議の上で行った。

・<u>清掃業務</u>

清掃員を雇用し仕様書に沿って清掃業務を行った。清掃員以外も朝夕清掃を行い、館内外ともに一定の品質を保つことが出来た。今後も引続き美化活動に努める。

・<u>危機管理</u>

消防計画、防災マニュアル、緊急連絡網などを作成・見直しを実施した。避難訓練時には消防員に来ていただき、実際の動きなども確認した。併せて、水消火器の訓練、煙ハウス体験も行った。

また、松江市出前講座にて原子力災害の講習会を開催した。

大雪などの際は早めに出勤し雪かきを行い、利用者の安全等を確保した。

・<u>その他</u>

1 月に 3 年に 1 度の「建築基準法第 12 条に基づく定期点検」を実施した。経年劣化等で修繕個所がいくつかあり、松江市と協議し今後、計画的に対応をしていく。

・年間パスポート会員　：181 人
・ボランティアスタッフ：65 人

松江歴史館

令和８年度の主な運営状況について

（１）館全体に関わること

入館者数・観覧者数

・入館者数：[4～9 月] 119,476 人　（令和 7 年度 84,110 人、令和 7 年度比 142 ％）

・観覧者数：[4～9 月] 29,191 人　（令和 7 年度 24,490 人、令和 7 年度比 119%）

→入館者数、観覧者ともに令和 7 年度と比べて増加している。特にゴールデンウイークやシルバーウイーク期間中の観覧者が多かった。一方で入館者の増加率に比べ、観覧者数の増加率が低い。入館者を観覧につなげる取り組みが必要である。

→次世代を担う小・中学生が松江の歴史文化への理解を深め、文化財への愛着と誇りを醸成するため、小・中学生の観覧料を令和 8 年 7 月 1 日より無料とした。9 月末時点では小中学生の観覧者数は令和 7 年度と比べ 1.1 倍だった。市内の小中学校への通知文の送付や当館 HP への掲載などで広報しているが、引き続き周知を図っていきたい。

（２）具体的な取り組み

【松江市】

展示・企画　※年間展示のスケジュールや内容は 15 頁のとおり

・企画展「意東焼 ―松江藩が作った幻の磁器―」

〔会期：4 月 24 日～6 月 14 日（45 日間）、観覧者数：3,189 人（１日平均 70 人）〕

→記念講演会「意東焼開窯の歴史的背景」（講師：島根大学法文学部教授　小林准士氏）を開催した。（参加者　65 人）

→企画展に関連し、松江おもしろ談義にて展示担当学芸員が意東焼の特徴と製作の様子について講演した。（参加者　44 人）

→ギャラリートーク（学芸員による展示解説）を実施した（計 4 回　参加者 129 人）。

→展示期間中に玄関ホールにて東出雲の特産品を販売した。（出店者：百市農園、計 2 回）

・企画展「松江の町人太助の日常 ―つらつら、おぼえ日記 ―」

〔会期：7 月 17 日～9 月 23 日（61 日間）〕、観覧者数：3,826 人（１日平均 63 人）〕

→記念講演会「大保恵日記と町人太助～松江城下の暮らしぶり～」（講師：松江市史料・埋蔵文化財課主幹　小山祥子）を開催した。（参加者 54 人）

→企画展に関連し、松江おもしろ談義にて展示担当学芸員が『大保恵日記』の記述の中から太助とその子政次郎の仕事について講演した。（参加者 52 人）

→ギャラリートーク（学芸員による展示解説）を実施した。（計 4 回　参加者 89 人）。

→企画展に関連し、市内小学 5・6 年生を対象としたお城マスターで、松江の町人の暮らしをふかぼりし、紹介した。（参加者 6 人）

→江戸時代に行われていた出雲大社の富くじをモデルに景品が当たる抽選会を開催した。（計 2 回　参加者 137 人）

→展示期間中、SNS にて毎日今日の太助の出来事を配信した。

→展示期間中、上記配信内容を紙ファイルにて、当館玄関ホール、堀川遊覧船待合い所に設置した。

・特別展「猪の目が揃う松江藩の甲冑」

〔会期：10 月 16 日～12 月 13 日（52 日間)〕

→記念講演会「松平治郷（不昧公）と国宝・白糸威鎧」（講師：東京国立博物館　佐藤寛介氏）を開催した。

→ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を活用し、日英中韓仏で展示解説を実施予定。

→「地域ゆかりの文化遺産を活用した展覧会支援事業（文化庁補助事業)」を活用して事業を実施。出雲大社が所蔵する「赤絲威肩白鎧　兜大袖付」（重要文化財）や荏原畠山美術館が所蔵する「紺裾濃胴丸具足」などや甲冑の形式と美を表現するために欠かせない資料や松江松平家７代藩主松平治郷が所用したと伝わる甲冑などのゆかりの資料を借用し展示を実施した。

→展示にあわせ、玄関ホールで甲冑着付け体験を実施予定。外国人を対象とした着付け体験も行う。

→甲冑武者による甲冑の見方講座や、子どものための甲冑講座を開催予定。

・館蔵品展「極秘諸国城図－松江藩士が所持した城図集－」

〔会期：令和 9 年 1 月 22 日～4 月 4 日（63 日間)〕

教育普及

・名誉館長講座〈継続〉

→藤岡名誉館長による中世の出雲の歴史についての講座。（月 1 回、4 月～実施）

・松江おもしろ談義－歴史をたずねる・美術にしたしむ－〈継続〉

→学芸員による松江の歴史や美術に関する講座。（年 6 回）

・松江城授業プロジェクト「松江城及び松江歴史館見学」（松江市教育委員会主催）（11 年目）〈継続〉

→市立小学 6 年生等に対して松江城と松江歴史館等を案内。（全 33 校 1,745 人予定）

・「めざせ！お城マスター！～もっと知りたい松江のお城と城下町～」の実施〈継続〉

→松江市内の歴史に興味がある小学 5・6 年生（保護者含む）を対象に、松江城や歴史館の裏側を見学するコースを用意。3 回企画し、8 月 1 日（土）は「江戸時代の松江の暮らし～人々のリアルに迫る～」参加者 6 人、9 月 26 日（土）は「難攻不落！松江城の秘密～攻防の仕組みを探る～」参加者 7 人、10 月 4 日（日）は「松江城下をブラあるき！～江戸時代の城下町にタイムスリップできる歩き方～」参加者 6 人。歴史館の職員が引率し、松江城や城下町の歴史や、文化財を保存し活かす博物館の役割について学習する機会をつくった。（指定管理者との連携事業）

調査研究

・『松江歴史館研究紀要　第 15 号』の刊行〈継続〉

広報

・松江歴史館ニューズレター「ＭＡＴＳＵＲＥＫＩ」の刊行〈継続〉

→11 号（秋号）〔発刊済み〕、12 号（春号）〔発刊予定〕
発行部数各：8,000 部
配布先：松江市内観光施設、松江市内小中学校、市内公民館、図書館、博物館等

近隣施設との連携

・あげ、そげ、ばけ　めぐり

→松江城周辺の対象施設で入場チケットを購入し、そのチケットを他の対象施設や協賛店で提示するだけで､2館目以降の入館料や乗船料が最大2割引でお得に巡ることが出来る､｢あげ、そげ、ばけ　めぐり」を周辺施設と連携し実施。さらに、協賛店でのグルメやお土産も特典付きで楽しめる。

実施期間：令和7年7月19日～

対象施設：松江歴史館、松江ホーランエンヤ伝承館、松江城天守、小泉八雲記念館、小泉八雲旧居、武家屋敷、明々庵、島根県立美術館、田部美術館、松江北堀美術館、堀川遊覧船

（4月から9月末までの松江歴史館での利用者3,491人）

・お堀のほとりで～見る・知る・食べる！

→11月3日（火・祝）に田部美術館主催で塩見縄手周辺の店舗・施設と連携したイベントを実施予定。当館は、イベントのチラシ提示による観覧料割引と松江算数活塾落語教室のこどもたちによる寄席を行う。

〈２０２６年度のスケジュール（企画展・特別展）〉

企画展

令和8年(2026) 4月24日(金)～6月14日(日)

意東焼
―松江藩が作った幻の磁器―

松江藩の産業の一つとして生まれた「意東焼」と呼ばれる磁器があります。意東焼は、天保3年(1832)ごろに意宇郡下意東村（現、東出雲町下意東）で藩窯として開いた窯で製作された磁器のことで、大鉢・徳利・猪口・花器などが作られました。操業期間は、7~8年と極めて短いため、その希少性により出雲地域では大事に保管されています。この度、意東焼の特徴について改めて見直すとともに、窯跡資料などをとおして松江藩が磁器の製作に取り組んだ様子を探ります。



意東焼染付窯垣図筆筒（出雲玉作資料館蔵）

特別展

令和8年(2026) 10月16日(金)～12月13日(日)

猪目が揃う松江藩の甲冑

松江松平家に仕えた武士は皆、甲冑に揃いの合印「猪の目」を付けていました。前進あるのみの猪の心意気をトレードマークとし、合戦に臨んだのでしょう。本展では、松江藩主や松江藩士の家に伝わった甲冑、松江藩が寺社へ寄進した甲冑を一堂に紹介します。



紫裾濃縅大鎧（当館蔵）

企画展

令和8年(2026) 7月17日(金)～9月23日(水)

松江の町人太助の日常
―つらつら、おぼえ日記―

江戸時代後期の松江城下で暮らした町人太助は、身に起こった出来事を日記に書き留めました。断片的に残る、太助40代後半から29年間の「大保恵日記」には、住むこと、食べること、家族のこと、働くこと、喜びと悲しみ、誕生と別れ、神仏に祈り日々を過ごした松江の町人の姿があります。太助の目を通して、江戸時代の松江の町人の暮らしぶりをのぞいてみましょう。



大保恵日記（信楽寺蔵・当館寄託、松江市指定文化財）

館蔵品展

令和9年(2027) 1月22日(金)～4月4日(日)

極秘諸国城図
―松江藩士が所持した城図集―

元禄5年(1692)、ある松江藩士の手元に74枚の城図をまとめた「極秘諸国城図」がありました。およそ30センチ×40センチの和紙に、東北から九州に至る各地の城郭・城下町を描いたものです。将軍になった徳川家康が改修した江戸城の「江戸始図」、真田信繁が築いた「大坂真田丸」の図などで注目を集める城図を全点展示します。



江戸始図（当館蔵）

利用促進

・市報や新聞、情報冊子への展示・イベント情報の掲載

・SNS での情報発信

・旅行会社への営業活動　→商談会などに参加し、歴史館を PR した。

・各種イベント、誘客活動の実施一覧

開催日	件名	人数	概要
毎週水曜	水曜こども寄席	166 人 (9 月末時点)	松江算数活塾落語教室の子どもたちによる落語の公開稽古
4 月 12 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	133 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
4 月 19 日(日)	特別茶席「きはる庵」	15 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験。一席 1,500 円
5 月 3 日(日) ～5 月 5 日(火)	弓打ち射的・手裏剣的当て	513 人	弓で大将を倒したり手裏剣を的に当てると景品を進呈。各 1 回 100 円
5 月 3 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	218 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
5 月 5 日(月)	松江真舞会　石見神楽上演	474 人	松江市の石見神楽団体「松江真舞会」による上演。無料
6 月 7 日(日)	弓打ち射的・手裏剣的当て	128 人	弓で大将を倒すと景品を進呈。武者の日協賛イベント　各 1 回 100 円
7 月 19 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	214 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
7 月 26 日(日)	特別茶席「きはる庵」	9 人	お茶会の雰囲気を気軽に体験。一席 1,500 円
8 月 1 日(土)	お城マスターB コース「クイズ de ふかぼり！江戸時代の松江の暮らし～人々のリアルに迫る～」	4 組 6 人	市内小学 5, 6 年生対象のフィールドワーク。定員 5 組、参加無料
8 月 12 日(水)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	27 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円 ※全額熊本地震義援金
8 月 13 日(木)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	51 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円 ※全額熊本地震義援金
8 月 14 日(金)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	21 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円 ※全額熊本地震義援金
8 月 15 日(金)	武者が語る小泉八雲の怪談「世にも奇妙な武者怪談」	61 人	小泉八雲が再話した怪談や松江にまつわる話を松江の武者が語る。参加費 500 円 ※全額熊本地震義援金
8 月 16 日(日)	富くじ抽選会	61 人	富くじをモデルにした景品が当たる抽選会。企画展観覧者対象
9 月 19 日(土)	富くじ抽選会	76 人	富くじをモデルにした景品が当たる抽選会。企画展観覧者対象
9 月 20 日(日)	火縄銃の演武と居合切り	329 人	松江城鉄炮隊と姉さま鉄炮隊による演武。観覧無料
9 月 26 日(土)	お城マスターC コース「難攻不落、松江城の秘密～攻防の仕組みを探る～」	4 組 7 人	市内小学 5, 6 年生対象のフィールドワーク。定員 5 組、参加無料

・松江城天守 VR 体験の実施【継続】

令和 8 年度 4 月以降 87 人の参加があった。

今後のイベント予定

・「水曜子ども寄席」毎週水曜日
・「お城マスターDコース（北堀町散策)」(10/4)
・「火縄銃の演武と居合切り」(10/11)
・「ナイトミュージアム」(10/17)
・「子どもと大学生まつえ子ども寄席」(10/17)
・「基本展示クイズラリー」(10/17)
・「松江歴史館子ども寄席－秋の陣－」(11/3)
・「やさしい甲冑講座　甲冑の美と験担ぎ」(11/8、21)
・「甲冑着付け体験」(11/15、22)
・「火縄銃の演武と居合切り」(11/15)
・「路上詩人こーた氏個展　余白」(11/20～12/6)
・「篆刻教室」(11/23)
・「親子で変身！甲冑武者」(11/28)
・「しめ縄づくり」(12/5)
・「あっぱれくんとしじみ姫結婚 15 周年記念イベント」(12/5)
・「火縄銃初撃ち」(1/2)
・「きはる庵」(1/17)
・「館蔵品展オープニングセレモニー」(1/22)
・「開館 16 周年イベント」(3/28)
・「火縄銃の演武と居合切り」(3/28)

維持管理業務

・設備等管理

保守点検業者と密に連携をとり管理。開館 15 年を越え、修繕箇所が多くなってきているが、松江市と協議しながら優先順位をつけて対応している。

・清掃業務

館内の清掃について、仕様書に基づき実施。朝夕は清掃作業計画表を活用し、開館作業以外の職員も清掃を行い、品質を保つよう努めている。普段できない箇所などは、休館日を利用して実施。今後もお客様目線で隅々まで清掃業務に努める。

・危機管理

消防計画、防災マニュアル、緊急連絡網などを作成し共有。8 月に長屋の熱感知器の故障が原因で、火災報知設備が鳴動したため、火災報知設備の操作方法、館内熱感知器の設置個所の共有をスタッフ全員で行った。今年度中にカスタマーハラスメントマニュアルを作成し共有する予定。

・その他

・年間パスポート会員　：170 人(9 月末時点)
・ボランティアスタッフ：72 人（9 月末時点）
・令和 9 年 1 月に 5 年に 1 度の「展示室・収蔵庫簡易燻蒸消毒作業」を実施予定。

松江歴史館

令和９年度運営方針・事業計画（案）

開館から 16 年目を迎えるにあたり、博物館が持続的に運営を続けていくために、市民に親しまれるとともに全国に誇れる博物館を目指して、市と指定管理者が緊密な連携を図って、以下の方針で運営していく。

（１）館全体の運営方針

館の改修についての検討〈継続〉

○持続的に館の運営を続けていくため、設備の計画的な修繕を行っていく必要がある。また、館の魅力を向上させるため、調査研究成果を取り入れた基本展示の改修の検討を進めていく。

公開承認施設としての適切な運営について〈継続〉

○松江歴史館は、令和４年８月７日から令和９年８月６日まで５年間、国宝や重要文化財の公開に適した博物館として「公開承認施設」に承認されている。引き続き公開環境の維持を図る。

登録博物館について〈継続〉

○令和５年４月１日付けの博物館法の改正で、博物館登録制度の見直しが行われ、既に登録されている博物館においても、法改正に沿った申請が改めて必要となった。経過措置期間内の令和９年度までに、申請手続きを行う。

（２）個別事項の運営方針・事業計画

【松江市】

展示・企画

○展示を４回開催する。うち、１回はパネル展示とする。

① 生誕 200 年記念　**企画展「松江の奇才・荒川亀斎」**

【会期】４月 23 日（金）～6 月 20 日（日）〔公開日数：51 日〕

【概要】荒川亀斎（1827-1905）の生誕 200 年を記念し、初代亀斎、２代來山、３代友山、４代亀堂、亀斎の甥嶺雲らの作品を中心に展示し、荒川亀斎の功績を紹介する。

② **松江城の修理に関するパネル展示**

【会期】７月 16 日（金）から９月 12 日（日）

③ **芥川龍之介没後 100 年記念　特別展「芥川龍之介の心を癒した松江」**

【会期】10 月 15 日（金）～12 月 12 日（日）〔公開日数：51 日〕

【概要】大正４年（1915）の夏、芥川龍之介は親友の井川（恒藤）恭に誘われ松江で遊んだ。この時の記録を松陽新報に掲載している。芥川龍之介没後 100 年を記念し、恒藤と芥川の交友関係や松江市出身の恒藤恭の顕彰を行う。

④ **企画展「『雲陽秘事記』－松江藩の秘密の物語－」**

【会期】3 月 10 日（金）～5 月 7 日（日）〔公開日数：51 日〕

【概要】江戸時代の実録『雲陽秘事記』をとりあげ、松江城下町に流布した松江藩松平家の初代直政から六代宗衍の治世におけるエピソードを紹介する。

○今後の企画展の開催に向けた調査研究、借用交渉を行う。

令和１０年度に予定している企画展のテーマ

館蔵品展「水墨画」
特別展「松江が誇る美術史家・桑原羊次郎」
企画展「ホーランエンヤ」

資料の収集・保存・活用

○松江の歴史や文化に関わる後世に残すべき貴重な資料は、購入、寄贈、寄託等により収集する。

○資料の適切な保存、活用を図るため、収蔵資料の点検や整理などを継続的に行う。また、資料を効果的に活用するため、収蔵品データベースに情報を登録し、必要なものは公開していく。

教育・普及

○学芸員などによる各種講座を定期的に開催する。
（松江おもしろ談義〔年 6 回〕など）

○市内の小・中学校、高校など、児童・生徒の歴史学習の場として活用してもらう。
特に「松江城授業プロジェクト」の実施を引き続き教育委員会と協力して実施する。

○地域の歴史や文化について探求する地元の教育機関への協力も引き続き実施する。

○子どもだけでなく、親子で松江の歴史や文化に親しむ機会を設けていく。
（令和 3 年度にはじめた「めざせ！お城マスター！」のような企画など）

調査・研究

○調査研究した成果を研究紀要（第 16 号）や講演会などで発表していく。

広報

○松江歴史館ニューズレター「ＭＡＴＳＵＲＥＫＩ」を刊行する。（13 号〔秋号〕、14 号〔春号〕）

○様々な媒体を通して、効果的にＰＲしていく。

利用促進

・営業訪問・広報による利用促進
（県内外の旅行会社、観光関連施設などへ訪問予定）
・ＨＰ、ＳＮＳの積極活用による施設情報の提供
・インバウンド客に向けた館内表示の見直し。
・喫茶きはる販売促進活動（年３回）
・年パス購入促進キャンペーン（年１回）
・アンケート収集強化からの利用促進
・行政との連携による利用促進
・宿泊施設、観光施設、公共施設等との連携
・ボランティアガイドの活用
・企画展示関連イベントの開催
・周辺の施設や周辺の学生と連携したイベントの開催

○イベントの開催予定一覧

開催予定時期	イベント名
４月	・火縄銃演武　・歴史館こども寄席
５月	・ＧＷイベント　・歴史館こども寄席 ・企画展関連イベント
６月	・城下町クリーンアップ計画 ・武者の日イベント　・歴史館こども寄席
７月	・親子体験活動　・ちぎり絵うちわづくり ・火縄銃演武
８月	・めざせ！お城マスター ・企画展関連イベント
９月	・めざせ！お城マスター　・大人活塾 in 松江歴史館 ・歴史館こども寄席
１０月	・みんなの民藝市　・お客様アンケート強化イベント ・松江ホーランエンヤ伝承館 15 周年記念イベント ・歴史館こども寄席
１１月	・火縄銃演武　・篆刻教室 ・詩人こーた個展　・歴史館こども寄席
１２月	・しめ縄作り　・歴史館こども寄席
１月	・鉄砲隊初撃ち　・新春プレゼント企画 ・新春書初め　・歴史館こども寄席
２月	・花もち作り　・歴史館こども寄席
３月	・開館 17 周年イベント　・歴史館こども寄席 ・企画展関連イベント

施設管理

○委託業者と連携し、設備機器・庭園管理など仕様に沿って適切に維持管理を行う。開館後 16 年目を迎え、修繕箇所も多くなっているため、松江市と協議しながら計画的に修繕を行い、利用者が安心・安全に利用できる施設管理を行っていく。

松江歴史館運営協議会 委員名簿

（敬称略、五十音順）

任期:令和 6 年 12 月 1 日～令和 8 年 11 月 30 日

役　職	氏　名	役職名等	分　野
会　長	小 林　　准 士	島根大学法文学部社会文化学科教授	学識経験者
委　員	芦 辺　　智 子	島根県立美術館支配人	社会教育関係
〃	岡 本　　成 生	島根県立古代出雲歴史博物館長	社会教育関係
〃	杉　　岳　志	島根県立大学人間文化学部地域文化学科准教授	学識経験者
〃	高 尾　　康 弘	松江市立朝日公民館長	社会教育関係
〃	引 野　　道 生	山陰中央新報社編集局情報部文化担当参与	学識経験者
〃	平 川　　眞 代	松江市子育てサポーターの会	家庭教育関係
〃	福 島　　律 子	元松江市教育長	学校教育関係
〃	藤 井　　康 二	松江市立佐太小学校長	学校教育関係
〃	藤 井　　美 保	公益財団法人 田部美術館学芸部主任	社会教育関係

松江歴史館運営協議会に関する法律・例規条文（抜粋）

博物館法

（博物館協議会）

第 23 条　公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

２　博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

松江歴史館の設置及び管理に関する条例

（運営協議会）

第 26 条　博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 23 条第１項の規定に基づき、歴史館に松江歴史館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、市長が任命する。

３　委員の定数は、10 人以内とする。

４　委員の任期は２年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

５　委員は、再任されることができる。

６　前各項に定めるほか、協議会に関し必要な事項は、規則で定める。

松江歴史館の設置及び管理に関する条例施行規則

（運営協議会の運営）

第 11 条　松江歴史館運営協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を置く。

２　会長及び副会長は、協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

３　会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

５　協議会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じ会長が招集する。

６　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

７　会議の議長は、会長をもって充てる。

８　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

９　協議会の庶務は、松江歴史館において処理する。

10　前各項に規定するもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮り定める。

〒690-0887
松江市殿町２７９番地
松江市文化スポーツ部松江歴史館
電　話：（０８５２）５５－５５１１
ＦＡＸ　：（０８５２）３２－１６１１
E-mail：　rekishi@city.matsue.lg.jp